

オーストラリア 柑橘類の輸出が回復する見込み

[FreshPlaza](#) 2025年5月27日

オーストラリアの柑橘類生産者は過去の輸出シーズンに、気象条件、労働問題、在庫不足等、様々な課題に直面してきた。しかし、予測では、今年は記録的な輸出の成果が達成され、業界にとっての転機となる可能性があることが示唆されている。

パース市(西オーストラリア州)の北東約170キロメートルに位置するムーラ地区では、生産者達は近年の厳しいシーズンから貴重な洞察を得た。西オーストラリア州最大の柑橘類生産者であるムーラシトラス社は、中西部の3つの果樹園から約1万トンの収穫を見込んでいる。同社CEOのシェーン・ケイ氏は、2024年は「特に不作の年」であり、同社の通常の年平均収穫量である8千トンを下回ったと述べた。

同氏は、レモン、マンダリン、グレープフルーツに注力し、特にオレンジの成績に注目しており、「現在、非常に暖かい秋を迎えている。果実の着色と適切な成熟が進むよう、昼は晴れて夜は寒い日を待ち望んでいる」と述べた。果実の色が緑からオレンジ色に移行することは、市場出荷の準備が整った証として非常に重要である。

収穫後の果実は梱包小屋で、目に見える傷の程度に基づいて等級に分けられる。傷のある果実は低価格で取引される一方、1級品の果実は、高品質の果実が好まれる小売市場や輸出市場に届く。シトラスオーストラリア社のCEOであるネイサン・ハンコック氏は、「特にオーストラリアでは、果実の外皮に傷があってはならないとある意味信じ込まされてきた」と述べた。

2025年に向けて、ハンコック氏は十分な出荷量と堅調な国際需要を予想している。なお、オーストラリアは2019年に輸血量30万4千トン、輸出額5億4,100万豪ドル(当時は1豪ドル=70~80円)の記録を樹立している。主な輸入国は、中国、日本、タイ等のアジア市場及び米国、カナダ、アラブ首長国連邦等である。

このようなチャンスがあるにもかかわらず、生産者は人件費をはじめとする継続的な諸課題に直面している。ケイ氏は、「賃金コストは上昇し続けており、それは我々が得る収益と一致している訳ではない」と指摘した。これらの課題に対処するため、同氏は風の影響と水の使用量を減らすことを目的として3ヘクタールの防護ネットを備えた試験ブロックでテストを実施している。同氏は、「この取り組みの費用は安くはないので、我々は今、費用と便益の分析を行っている」と述べ、節水の重要性を強調した。

出典: [ABC News](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)